水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年七月

1	かれんはっち	カラフルなテント並べて夏の山 夏の山にカラフルなテントがならぶ情景が見えてきます。リズムがいい。	米山カローリング
2		バリ島の波音再生熱帯夜	雪待月田猫
3		夏逝くや病室の妻見舞えずに	森　佳月
4		翡翠や去りしきらめきも活色	蛍のまま
5	凡士	汗だくだ動かぬ左リハビリだ	宇田靖之
6		懐かしき時を探してラムネ玉	新井のり子
7	春駒 霜里	雲の峰ふたつの町をのみこめり 夏の雲の迫り来る様。	北郷興亜
8		夜通しのあめかぜ梅雨の締めくくり	しーしー
9	興亜	直射浴び男のひらく夏日傘 関西では男の日傘があるようですね	光雲2
10	のり子	吐息はき灯りの下の水中花	つぶ金
11	梗舟	青梅雨や錆びシャッターにバンクシー 季語が良い。	ありぎりす
12		踊り子の開脚六時巴里祭	山菜
13	誠慈	二人連れ無言のままに蝉時雨	きりり
14		散歩道芙蓉一輪ひらく朝	高松和永
15	霜里 順一	ユニフォームの球児らくぐる茅の輪かな 勝利祈願、健やかであれ。将来の期待も込めて、茅の輪の青々とした感じが伝わってくるようでした。	くるみ

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年七月

16		通される客間に百合の花おもく	春代
17	俊之	ひまはりや人を殺せば名誉勲章 非常にアイロニックな句である。昨今の情勢への怒りと嘆きが感じられる。	網野月を
18	佳月 しーしー	一歩出て一歩ひるみぬ油照 玄関を出て、暑さに脚が止まった瞬間がよく出ています。	朝子
19	和永 たくみ くるみ 佳月 風子 はっち	ひとさじのアイスを母の舌にのせ 寝たきりであった母を思い出します。場景が情景となってます。介護は大変ですが、アイスクリームの冷たさをお母さんも喜んでおられるのではないでしょうか。優しい介護を頑張ってる様子がみえます。	河野凡士
20	風子	蟻もまた生きてるかぎり懲役刑	峰岡誠慈
21		蟻もまた生きてるかぎり懲役刑	峰岡誠慈
22		ボンネット揺れてドヤ顔雨蛙	山川充
23		葉桜の綻びを継ぐ空の碧（あお）	小林土璃
24		夏物をアウトレットに纏め買ひ	龍野ひろし
25		梅雨続く屋上タンクの独り言	神谷たくみ
26	田猫	蝉時雨友呼ぶ声を掻き消せり	春駒
27		陽射しあびかけだすきみのたてになる	磯辺安美
28	くるみ	蚊を払ふテレビの中は独裁者	わがん
29	ひろ 光雲2し	還暦も少女に戻る船遊び	高田はっち
30	暦文 たくみ	駄菓子屋に見掛けぬ店主夏休	石関六弦

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年七月

31	誠慈	また一人死なねば会えぬ人星祭	霜里
32	光雲2 米山 梗舟 田猫	睡蓮の笑くぼに遊ぶ蛙かな ユーモラスな写生の句。微笑ましい。	新　暦文
33	くるみ 凡士	埋まらない記憶のパズル半夏生 季語の設定がお見事！！歳をとると記憶は断片になり、きちっと埋まらなくなる。	青木鶴城
34		草刈るや濡れた衣に絡む草	和田イチ子
35		網替えて出目金狙う翁の眼	岡崎梗舟
36	春代 誠慈	海女の骨夕焼（ゆやけ）の海に還りけり 臨場感がありいただきます。	小林陸人
37		炎天や串の根もとに紅しょうが	青山雀
38	朝子 梗舟	朝涼や風をまとひて太極拳	かれん
39	音思 俊之	白銀の箸の滴よ夏料理 暑さを忘れさせる冷菜のおいしさが伝わってきますね。箸先に注目できる鋭さ、またそれを”白銀”と表現し”夏料理”と取り合わせる発想がすばらしいと感じました。	染谷風子
40		天灼けて犠牲者の出る線路かな	石川順一
41		秋めくや勿来関を越ゆる風	しんい
42		嗚呼溽暑あえぎて星の涼しさよ	雪待月田猫
43		天国の妻まで昇る入道雲	森　佳月
44	しーしー	トロッコの黒部峡谷夏の山	米山カロリング
45		顔朱し甘酒飲みし下戸な我	宇田靖之

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年七月

46		夏の海暮れぬうちから爆竹よ	新井のり子
47		レース服そよがせ眠る姉妹かな	蛍のまま
48		梅雨の明け手織りの機を杼が走る	しーしー
49	ひろし 和永	睡蓮や奏でし雨のピアニッシモ 睡蓮に雨は似合います。	光雲2
50	たくみ	朝焼けは時化の兆しやオホーツク	北郷興亜
51	のり子 霜里 米山 音思 六弦	アロハ着て通勤電車の隅に座す ちょっと気が引けます。少し照れくさい感じが出ています。通勤客のなかに観光客が座っている、その違和感をうまく捉えておられます。	ありぎりす
52		軽みとは日本のこころパリー祭	山菜
53		ニメートルため息洩れる夕端居	つぶ金
54	文 暦 土璃 のり子	鬼ごっこ声のゆくへに夏のそら いつの世も夏の子供はこうあって欲しい。	高松和永
55	六弦	アイスクリーム女にも七人の敵	くるみ
56		夕顔の暮色に溶ける悲恋かな	きりり
57	佳月	天皇も僕も言ひたいことを言ふ 天皇も人間ですものね。	網野月を
58	駒 音思 はっち 順一	怪獣のやうな寝息や日焼けの子 相当楽しく遊んだのでしょう。読み手にそう感じさせる句です。子供は元気ですね。怪獣の様な寝息に将来性の高さが含まれて居るのかもしれません。	朝子
59	しーしー	ファンファーレ奏でるやうに百合の花 百合の豪華さと花のかたちをうまく咏みこんでいますね。	春代
60		どの朝の暑さも一期一会なり	峰岡誠慈

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年七月

61	暦文 ひろし 朝子 つぶ金 興亜	馴れ染めは風に拾うた夏帽子 昭和の出会いはそんなものですね。ロマンチックな出会い。風に拾ったが良いです。	河野凡士
62		蟷螂や脱皮の度にオトナブルー	山川充
63	風子 田猫	一匹の蛍が泳ぐ真の闇	小林土璃
64	凡士 春代	どの朝の暑さも一期一会なり	峰岡誠慈
65	和永 六弦	夏の雲我が故郷の過疎っぷり 寂しいですね。下五の明るさが良いです。	神谷たくみ
66	朝子 米山	額寄せ子の手の中の初蛍 好奇心の塊の子供たちの様子が微笑ましい。	春駒
67	光雲2	暑き日や間欠泉の鼓動鳴る	龍野ひろし
68	土璃	扇風機強に切換へ豆カレー リアリティがある。	わがん
69	つぶ金 春代 順一	ごめんねを上手に言えて西瓜食む 花びらが舞う中でのひとコマをうまく切り取ってますね。ごめんねが上手に言えるとは殊勝な心掛けだと思いました。そこに西瓜の赤さが絡み合い、いい感じの句に仕上がって居ると思いました。	高田はっち
70		夏の夕過ぎ去りしときよみがえる	磯辺安美
71		ひまわりの渇いた土に養われ	霜里
72	かれん 俊之	サングラスの少年怪しき本を買ふ サングラスをかけた少年のどきどきした姿が想像できます。思春期全開といった感じが夏の季語と合っていると思います。	新　暦文
73	土璃	町ごとの家紋揃ひぬ夏祭	石関六弦
74		蝉時雨墓も移りて故郷よ	和田イチ子
75		熱帯夜夢の中まで熱帯夜	岡崎梗舟

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年七月

76
夏休みキャリーバッグが鬩ぎ合ふ
青木鶴城

77
春駒
つぶ金
しーしー
拝啓の後は真白や髪洗ふ
男と違う思考方法に惹かれました。
青山雀

78
かれん
涼しさや出刃に彫られしわが名前
愛用の出刃に彫られた文字に涼しさがあります。
小林陸人

79
興亜
室外機のうなる路地裏蟻の塔
うなる路地裏この句にピッタリ。
しんい

80
虫干や&#ー00006;&#ー00006;多き昭和の書
染谷風子

81
群衆の熱気うずまく揚花火
かれん

82
道灼けてゴミが散らばり巣壊され
石川順一

83

84

85

86

87

88

89

90